

..... 編集後記 .....

◆ 今月号の表紙写真に目を奪われた読者も多いのではないのでしょうか。榎並さん・坂野さんによる「超高压変成岩」の続編に寄せられた写真の中から選ばせていただきました。実態は表紙解説をお読みください。超高压変成帯の岩石中には種々の特異な鉱物が生まれます。これら鉱物の性質を調べることから、変成岩の生い立ちと変成帯の進化を知ることが可能になり、地球深部からの書簡を読み解くことができるのです。

坂野さんらによる世界各地の超高压変成岩の写真も口絵を飾りました。興味深い話題を2回に亘ってご投稿いただき、ありがとうございました。

◆ 領家帯を永年の研究フィールドとしてこられた瀧木さんからは、領家帯の岩石、変成作用などについての詳しい解説をいただきました。領家帯の研究史を振り返る意味でも、示唆に富む内容を含む一文といえるでしょう。

◆ 黒柳さんからは、浮遊性有孔虫の殻の巻き方向が水温を反映するかに関する考察が寄せられました。生物の特性が環境指標となるか否かは、古環境解析の手法の一つとして研究が進められているようです。結晶の世界でもその構造に右と左のあることが知られていますが、原因は未だ定かではありません。分からないことはまだまだ多いのです。

◆ 昨年11・12月号に「ブータンの地質」を寄せられた茂木さんからは、地質家の目を見たブータンの現状を紹介していただきました。ブータンは単に観光目的としても入国には困難を伴うようで、やはり永

遠の秘境として残されるべき国なののでしょうか。

◆ 今月号には他に、地下水調査のトレーサーに複数の同位体を同時に用いた”マルチトレーサー”の試み、バンクーバーで開かれたアジアの鉱物資源ポテンシャルに関する国際会議の内容、及びプラハの国立博物館の訪問記事を掲載しました。後者は、極短時間の滞在と筆者がいう割には歴史的背景など中身も濃く、なかなか示唆に富んだ紹介記事に仕上がっています。

◆ 現代短歌の中の地球科学(昨年8月号から連載)は今回で一応終了することになりました。この連載は、意外に色々な地学用語が現代歌人の間に取り上げられていることを教えてくれました。今度は筆者自身の作品でお目にかかれることを楽しみにしています。

◆ さて、編集子は今月号で委員長を退任いたします。月刊誌を編集する楽しみも苦しみも味わい尽くした1年間でしたが、終わってみればアッという間のようだった気もしています。

この間、石原舜三産総研特別顧問にはご自身のご投稿に、また外部の方々へのご寄稿依頼にと、多大のご協力を賜りました。心から感謝いたしております。

ご投稿いただきましたの方々、並びにご愛読くださいました皆様に厚くお礼を申し上げますと共に、これからも地質ニュースへのご支援を宜しく願います。

(遠藤 祐二)

地質ニュース編集委員会

委員長：遠藤祐二

副委員長：谷田部信郎

委員：磯部一洋・七山 太

安川香澄・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター 地質標本館

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 0298-61-3754

Fax. 0298-61-3569

地質ニュース	第571号	2002年	3月号
	定価¥785(本体価格¥748)	〒実費	
2002年3月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03)3265-0951(代表)		
	Fax. (03)3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

©2002 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターおよびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ